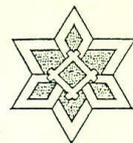


ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和7年1月31発行

(本年度12号)



児童会:「男女関係なく仲良く遊んで毎日学校に来たいと思える学校にしよう大作戦」

給食週間～逃げる2月を逃がさない

昨年は大雪に見舞われた1月でしたが、今年は降雪も少なく、日常生活は混乱しませんでした。それでも1月の中頃には、グラウンドが雪で真っ白になり、雪遊びができる日もありました。楽しい歓声と雪玉が飛び交い、可愛らしい雪だるまが並びました。雪が融けてしまうと少し残念そうでしたが、子ども達の元気な姿が見られてよかったです。

1月20日から24日は給食週間でした。私達の身体は食べ物によって作られ、食べ物によって活動エネルギーを得ています。「食」は私たちが生きていく上で欠く事ができません。学校では給食の前後にあいさつをします。集会で「いただきます」は、食事を準備してもらった事への感謝や、食材の大切な命を有難く頂戴するという意味があると話をしました。すると「生き物の命をもらっとるなら、残さんと食べなあかなあ」と言う子もいました。また「ごちそうさま」は「御馳走様」と書き、今のようにスーパーや自動車がない昔は、客をもてなすために方々を走り回って食材を集め、料理を作った事に由来すると話をしました。明治22年に山形県鶴岡町の大督寺(境内)にあった忠愛小学校で給食が始まった当時は、子ども達のために大督寺の僧侶が歩いて家々を回り、托鉢(たくはつ)によって食材や資金を集めながら給食を作っていました。まさに「御馳走」だったわけです。世界各地でも、それぞれの国の特徴を生かした学校給食が提供されていますが、どの国においても、子どもの健康と健やかな成長を願って、様々な工夫や思いが詰まっています。

食材は何の苦勞もなく手に入るわけではありません。農業や畜産業、漁業等々、それに携わるたくさんの人々が手間や努力を重ねるからこそ得ることができるのです。給食室では、子ども達に安心・安全な給食を提供するために、多くの基準や制約をクリアしつつ、調理方法や味付けを工夫し、旬の食材を生かして、本物の味にこだわった給食が作られています。配食のタイミングを調整したり微妙な火加減や隠し味を工夫したり…そのひと手間を加える事で格段に美味しくなります。またアレルギー対応など一人一人の健康を考慮した取組も、毎日のように続けられています。さらに、昨今の物価上昇は学校給食に大きく影響しており、給食の質を維持する事はとても大変です。しかし、工夫を凝らしよりよい給食を提供する事は、調理スタッフと栄養士のチームワークや美味しさへのこだわり等々、子ども達の笑顔のために頑張ろうとする気持ちに支えられているのです。給食週間では、心を込めて「いただきます」と「ごちそうさま」のあいさつをする取組を進め、給食室の前では、しっかりあいさつをする子ども達の声が聞こえています。また「給食ありがとうカレンダー」を給食室に届け、感謝の気持ちを伝えました。毎日の給食を有難く頂き、給食時間が楽しいひと時になるよう願っています。

2月に入りまだまだ寒い日々が続きます。児童会の目標は「男女仲良く遊んで毎日学校に来たいと思える学校にしよう大作戦」です。思いやりと感謝の心を大切に、学校生活の充実を目指していきます。2月は「逃げる」と言いますが、6年生を送る会など大きな行事も控えています。計画的に学習し「逃げる2月を逃がさない」よう取り組んでいきます。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同

